

岐阜県恵那市大井町地区の景観計画策定に向けた地域資源に関する考察
 —中山道大井宿とその周辺地域を対象として—
 A Consideration about the Local Resources for Landscape Planning at Oi-cho Area of Gifu
 -A Case Study of around Oi-juku, Nakasendo-

○井出純一¹, 横内憲久², 岡田智秀³, 押田佳子³, 大塚宏樹¹

*Junichi Ide¹, Norihisa Yokouchi², Tomohide Okada³, Keiko Oshida³, Hiroki Ohtsuka¹

Abstract: This study aims to the consideration about the local resources for landscape planning at Oi-cho area of Gifu. As results, it is necessary to clarify and conservation for the landscape value in the north area.

1. 背景および目的

岐阜県恵那市では 2008 年より、景観法に基づく景観計画策定作業が進められたことと連動して、地域別の景観まちづくり活動が展開されている。市内全 13 地区あるうちのひとつである大井町地区でも、このほど景観まちづくりが始動し、筆者らもその活動に参画するに至った。当地区は、JR 恵那駅を内包していることからアクセスが良好で、さらに中山道の 46 番目の宿場町「大井宿」を有している。しかし、当地区の良好な景観形成に向けた議論は緒についたばかりであり、景観形成に資する地域資源や課題が捉えきれていないのが現状である。そこで本稿では、岐阜県恵那市大井町地区を対象とし、景観形成に資する地域資源の抽出と現状の課題について考察する。

2. 研究方法

本稿では、恵那市役所提供の当地区に関連する史資料^{[1][2]}と市発行の観光ガイド^{[3][4]}の記載事項に着目し、地区内の空間構成要素や観光としての見所といった景観資源として捉えられる記述を分析することで、現存する地域資源の抽出とそれらの分布状況および課題点等を考察する (Table 1)。

3. 結果および考察

Table 2 は、分析資料に記載された当地区内の地域資源とそれらの特徴を示し、それぞれの位置を布置したものが Figure 2,3 であり、Table 2 の要素分類を示したものが Table 3 である。以降、これらの特徴を述べていく。

(1)現状の地域資源の特徴と分布状況—Table 2,3 をみると、当地区内の地域資源として多いものは寺社や建造物・史跡等であり、これに対して自然的物事はほとんど挙げられていないことがわかる。このことから、当地区内の現状を特徴づけるものとして、文化・歴史的施設が中心である一方、自然系の景観要素の抽出が課題といえよう。

次に Figure 2,3 より地域資源の分布をみると、集中するエリアは中山道沿いであり、中山道よりも北部にあたるエリアではほとんど分布が見られず、中山道の町並みに関心が集中している様子が伺える。

(2)眺望点の特徴—続いて Figure 2 において、景観計画で重要な眺望点に着目すると、当地区内には広重の傑作といわれる作品「木曾海道六拾九次・大井」が描かれた視点場 (地点番号 7, Figure 4) や、「日本風景論」を著した志賀重昂が命名した「恵那峡」 (地点番号 25) が挙げられている。これら 2 点はどちらも中山道の町並みとは逆方向の眺望点である。このことをふまえると、現状において関心の高さが伺える中山道の町並みを視対象とした眺望点の発掘が期待されよう。

Table 1. The method of study

項目	内容
文献調査	大井町の歴史・地域資源などについて 文献[1],[2] 観光マップから地域資源の分布状況を把握 文献[3],[4]
現地調査	中山道大井宿の現状把握 【2012(平成 24)年 6 月 30 日】 文献調査より把握した大井町全域の地域資源調査 【2012(平成 24)年 9 月 23 日】

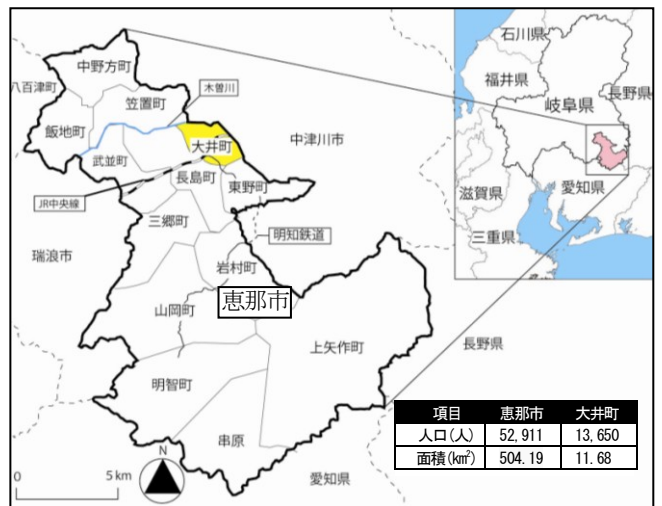


Figure 1. The map of Oi-cho Ena

1 : 日大理工・学部・交通 2 : 日大理工・教員・建築 3 : 日大理工・教員・交通

Table 2. The list of regional resources

地点番号	地点名	特徴	出典番号
1	馬頭観音(五妙坂)	舟型光背を背にした像。	3
2	中山道の碑	—	3
3	富士浅間神社	「塩の御前」と呼ばれる人が多い。	3, 4
4	常夜灯	—	3
5	岡瀬沢観音堂	4.0~5.0年毎に再建される。	2, 3
6	馬塚	—	2, 3
7	中山道基平坂公園	平成4年3月に完成。歌川広重の浮世絵跡画であり「木曾街道六拾九次之内大井」のモデルとなった地。	2, 3
8	根津神社	源頼朝の家臣根津基平をまつる神社。高さ2.24mの宝篋印塔があり、基平の墓標とされている。	2, 3
9	関戸一里塚跡	明治~大正にかけて壊され埋地となる。当時は子供たちの遊び場になっていた。	1, 2, 3
10	長石塔	四基と観音堂一基と続きほかに五輪塔二基がある。	2, 3
11	旅人の墓	北は秋田、南は鹿児島にわたる人々がむむる。主に男性で、女性は4人のみ。	3
12	蓮華寺古墳群	—	3
13	長国寺	大宝2年(703)、行基が草創。現在のものは元禄中に建立。	1, 2, 3, 4
14	名号塔	—	3
15	高札場	幕府の法度・控書の掲示場。一般的には、3~4枚ほどだが大井宿は10枚掲示。	1, 2, 3
16	上横橋	大井宿の入り口となる。	3
17	毘沙門天(塔)	大井城の北西の鬼門にあたる。城の押さえとして祀られたもの。	2, 3
18	三十番神	石造で寛文2年(1663)11月13日の建立。問屋を務めた井口家の氏神様。	2, 3
19	延寿院横薬師	通称「横薬師」。行基作と言われる薬師如来がある。病氣、長命災禍に霊験がある。	1, 2, 3
20	本陣跡(昭和22年焼失)	大名、公家、幕府の役人など身分の高い人たちが宿泊する場所。	1, 2, 3, 4
21	上問屋跡	公用の荷物を輸送する場。一定数の人馬を常備し隣村まで継送る。	1, 2, 3
22	中山道ひし形資料館	—	3, 4
23	市神神社	阿木川の洪水で数回の被害にあう。明治2年、現在地に移動。	1, 2, 3
24	大井城跡	—	4
25	恵那峡	「恵那渓」や「恵那渓谷」と呼ばれていた。大正9年5月21日、「日本風土記」の著者である志賀重昂が川下りした際、「恵那峡」と命名。山並みや木曾川などの自然を眺望できる良好な視点場。	1, 2, 3, 4
26	傘岩	雨水の浸食や風化により柔らかい部分がくびれて現在の姿となる。	4
27	大井武並神社	承久2年(1220)創建。戦国時代、戦火により焼失。永禄7年(1564)、再建(現在の本殿)。	1, 4
28	金毘羅神社	獅子舞	4
29	シダレザクラ	—	4
30	白木改番所跡	木製品は中山道を利用して運搬しており、白木製品を取り締まった。	1, 3
31	郷蔵と祭礼場	凶作に備えて穀類を保存した倉庫。	3
32	東禅寺	恵那地区唯一の黄檗宗の寺。旧境内地は現在恵那東中学校が建てられ、通学路は以前の東禅寺への参道であった。	1
33	御所の前五輪塔部	—	4
34	ため池	大井村にはため池が計3カ所存在した。	1
35	内城稲荷神社	—	3
36	茶屋みたけ屋跡	文久元年(1861)、ここで売った餅が大そう美味で旅人の間で有名となる。この家の主人の名前をとり、「餅屋勘兵衛」と呼ぶようになる。	1, 3
37	宿役人の家	—	3
38	明治天皇行在所	—	3
39	下問屋跡	公用の荷物を輸送する場。一定数の人馬を常備し隣村まで継送る。	1, 2, 3
40	橋本屋跡	かなりの大規模の旅籠屋であった。特別な客室を持つ旅籠屋。	1, 3
41	旅籠新田中屋	—	3
42	旅籠屋角屋	座敷に接した奥に小庭園を設けることが多い。藩縁を渡って、奥に便所を設ける。	1, 3
43	古屋家	—	3
44	長屋門	表門に比較してかなり大形で、長屋に挟まれているため長屋門といった。	1, 3
45	恵那峡八十八か所	昭和7年、春より像の造立が始まり、20余礼所で中止	2, 3
46	大井橋	大井橋はもとは川の中ほどに切石を組んで中島を築き、これを中継点として2つの橋を架けて渡っていた。度重なる氾濫で、現在の位置に移る。	1, 2, 3

[注]出典 1: 恵那市史通史編第2巻、2: 恵那市中山道かたりへの水碓、3: 恵那街道歩記、4: 恵那市文化財ガイドマップ、—: 説明文なし

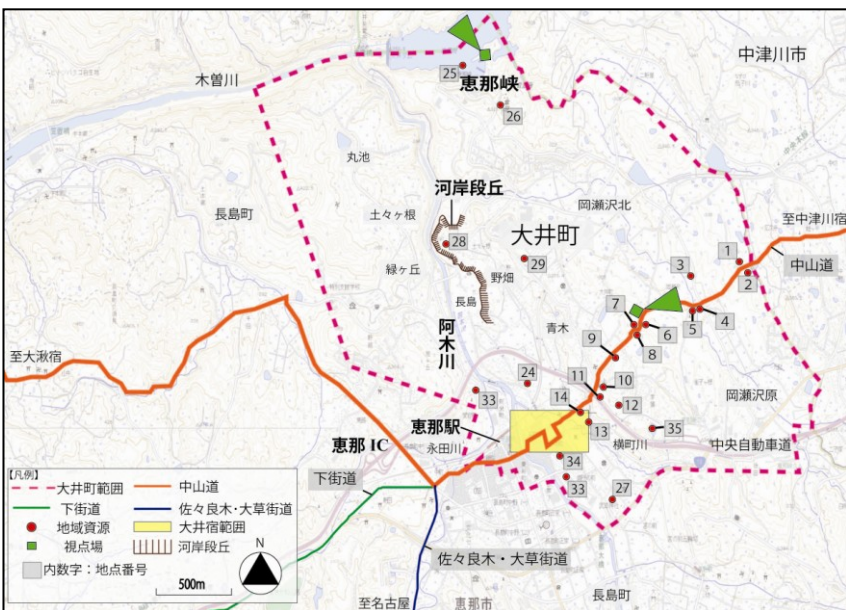


Figure 2. The map of regional resources at Oi-cho

Table 3. The list of classification regional resources

分類項目	件数	具体的事物
寺社	11	1.馬頭観音(五妙坂) 3.富士浅間神社 5.岡瀬沢観音堂 8.根津神社 13.長国寺 19.延寿院横薬師 23.市神神社 27.大井武並神社 28.金毘羅神社 33.東禅寺 36.内城稲荷神社
建造物	10	15.高札場 22.中山道ひし形資料館 32.郷蔵と祭礼場 38.宿役人の家 39.明治天皇行在所 42.旅籠新田中屋 43.旅籠屋角屋 44.古屋家 45.長屋門 46.恵那峡八十八か所
史跡	10	2.中山道の碑 9.関戸一里塚跡 13.高札場 20.本陣跡 21.上問屋跡 24.大井城跡 31.白木改番所跡 37.茶屋みたけ屋跡 40.下問屋跡 41.橋本屋跡
塚・墓・塔	9	4.常夜灯 6.馬塚 10.長石塔 11.旅人の墓 12.蓮華寺古墳群 14.名号塔 17.毘沙門天(塔) 18.三十番神 34.御所の前五輪塔部
橋	2	16.上横橋 47.大井橋
眺望点	2	7.中山道基平坂公園 25.恵那峡
その他	3	26.傘岩 29.土ヶヶ根のシダレザクラ 30.大井村用水

(3) 北部エリアの展開—現状では意識が向けられていない北部エリアについて、Figure2 をみると、阿木川や、その河岸段丘のほか、等高線の分布から豊かな地形変化(高低差)と樹林地の存在などが認識できる。これより、北部エリアでは、現状では注視されていない自然系の地域資源やその眺望点の抽出が期待できよう。特に、北部エリアは東方面に恵那インターチェンジ、北端に一大観光拠点である恵那峡が存在することをふまえると、これら2点を結ぶ主要動線上に地域資源や眺望点を見出していく取り組みが望まれる。これにより、JR 恵那駅から徒歩圏内(500m~1km 程)で大井宿の風情が楽しめる「宿場巡りルート」に加え、その周辺部において自動車利用を通じて当地の自然的風景を楽しむ「恵那峡周遊ルート」が構築できよう。この点につき市へのヒアリングによれば、このエリアは白地地域への住宅進出が顕著であるほか、リニア中央新幹線の軌道整備が決定されていることを把握した。このことから、現状では関心が希薄な北部全体の景観的価値の明確化と、その保全策の検討が急務といえよう。以上の考察により、JR 恵那駅と宿場町をつなぐ徒歩観光ルートを有する当地区において、今後は、北部エリアの恵那峡を核とする自動車周遊ルートを整備することにより、徒歩と自動車利用の各々のニーズを満たす二重観光ルートが構築できる可能性を示した。

4. 参考文献

- [1] 恵那市史通史編第2巻,1989,3
- [2] 恵那市教育委員会:恵那の中山道かたりへの水碓,2000,3
- [3] 恵那市教育委員会:恵那街道歩記,2007,3
- [4] 恵那市文化財ガイドマップ

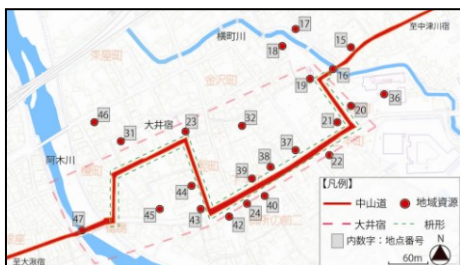


Figure 3. The map of regional resources at Oi-jyuku

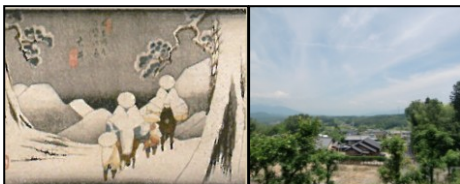


Figure 4. Oi-cho drawn by Hiroshige and present picture